

令和3年度
豊島区動植物生態調査報告書

令和4年3月

令和3年度 豊島区動植物生態調査 報告書
目次

第Ⅰ章 調査の目的および概要	
1. 調査の背景と目的	1
2. 調査の概要	1
第Ⅱ章 調査の内容	
1. 調査の対象および方法	2
(1) 植物	2
(2) 昆虫類（大型種）	2
(3) その他小動物（哺乳類、爬虫類、両生類）	2
(4) 水生生物調査	2
2. 調査期間	2
3. 調査地	
(1) 南長崎はらっぱ公園	3
(2) 清和小学校	4
(3) 池袋第三小学校	5
(4) 目白小学校	6
4. 評価方法	7
(1) 国および都レッドリスト記載種	7
(2) 外来種	8
第Ⅲ章 動植物生態調査結果	
1. 植物調査	9
(1) 調査結果概要	9
(2) レッドリスト記載種	10
(3) 外来種	11
(4) 各調査地の確認状況	16
(5) 考察	24
2. 昆虫類調査	26
(1) 調査結果概要	26
(2) レッドリスト記載種	26
(3) 外来種	26
(4) 各調査地の確認状況	29
(5) 考察	33
3. その他小動物調査	35
3-1 哺乳類	35
3-2 爬虫類	35
(1) 調査結果概要	35
(2) レッドリスト記載種および外来種	35
(3) 考察	35

3-3	両生類	36
(1)	調査結果概要	36
(2)	レッドリスト記載種および外来種	36
(3)	考察	36
4.	水生生物調査	38
(1)	調査結果概要	38
(2)	レッドリスト記載種	38
(3)	外来種	40
(4)	各調査地の確認状況	41
(5)	考察	46
5.	調査結果に基づく今後の維持管理の提案	48
(1)	南長崎はらっぱ公園	48
(2)	清和小学校	48
(3)	池袋第三小学校	49
(4)	目白小学校	49
(5)	ビオトープ全般に対する提案	50

第 I 章 調査の目的および概要

1. 調査の背景と目的

本調査の目的は、平成 31 (2019) 年 3 月策定の「豊島区環境基本計画」の施策における、生物多様性に関する情報収集である。

平成 27 年度までに、区内の特に重要と思われる緑地は調査を終了した。しかし、区西部の小規模の緑地については生物相が把握されていなかったことから、平成 28 年度には区西部に約 1.5km のルートを設定し、昆虫類や小動物の調査を行った。平成 29～30 年度には区西部に位置する南長崎はらっぱ公園ビオトープにおいて、生物多様性保全に配慮した維持管理と植物の概況調査および水生生物調査を行った。

「豊島区環境基本計画 2019-2030」では、生物多様性を保全する重点施策の中に「自然環境の保全と創出」を掲げており、区有施設ビオトープの整備と維持管理が進められている。区有施設ビオトープの中の学校ビオトープについても、モニタリング調査が平成 31 (令和元) 年度から開始された。

今年度は、区有施設ビオトープのうち、南長崎はらっぱ公園、清和小学校、池袋第三小学校、目白小学校のビオトープを選定し、動植物相の把握を行った。

2. 調査の概要

調査工程を表 I - 2 - 1 に示す。対象は、植物、昆虫類 (大型種)、その他小動物 (哺乳類、爬虫類、両生類)、水生生物 (魚類、水生昆虫類、甲殻類等) である。各分類群で年 2 回、それぞれの特徴を把握するために最適な時期を設定した。

表 I - 2 - 1 動植物生態調査の工程

調査項目	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
植物											
昆虫類											
水生生物											
その他小動物											

第Ⅱ章 調査の内容

1. 対象および方法

(1) 植物

植栽を含む、全ての維管束植物（シダ植物、裸子植物、被子植物）を対象とした。植栽の判断は、調査地の立地条件、植物の分布域、栽培品種・外来種であるか否か、花壇や植栽地に列になって生育しているかなどの状況などをもとに行った。

調査方法は、任意踏査による目視とした。

(2) 昆虫類（大型種）

生態に関する知見が比較的蓄積されている大型昆虫（トンボ類、カマキリ類、バッタ類、セミ類、カメムシ類、チョウ類など）を基本とし、訪花性昆虫を調べるため、ハナアブ類、ハチ類なども対象とした。

調査方法は、任意採集による見つけ採り法、スウィーピング法を用いた。

※スウィーピング法：捕虫網により、樹上や草地にいる昆虫類をすくい捕って採集する調査方法

(3) その他小動物（哺乳類、爬虫類、両生類）

植物調査、昆虫類調査および水生生物調査時に並行して実施した。

調査方法は、任意踏査による目視とした。

(4) 水生生物調査

魚類、水生昆虫類、甲殻類等、肉眼で目視できる水生生物を対象とした。

調査方法は、タモ網及び魚用小型網を捕獲する方法とした。捕獲後、記録および写真撮影を行い、アメリカザリガニは駆除、それ以外の生物は池に戻した。

2. 調査期間

- ・植 物：春期調査 令和3年 5月25日、5月28日
秋期調査 令和3年 10月19日、10月20日
- ・昆 虫 類：夏期調査 令和3年 7月20日、7月29日
秋期調査 令和3年 9月10日、9月22日
- ・水生生物：秋期調査 令和3年 9月10日、9月22日
冬期調査 令和4年 3月8日、3月9日
- ・その他小動物：植物、昆虫類、水生生物調査と並行して実施。

3. 調査地

(1) 南長崎はらっぱ公園

草地の広場が中心の公園である。北西部にビオトープが設けられ、隣接して花壇が整備されている。公園の西側では「いのちの森植樹」が行われ、常緑広葉樹が中心の樹林となっている。

ビオトープは地域住民との協働により平成 22 年 11 月に造られた。約 170 m²あり、その中にある池は約 40 m²である。水は井戸水が利用され、定期的に区民団体である「南長崎はらっぱ公園を育てる会」により補給されている。池の浮島の北東側が最も深く、水深は約 40cm であった。柔らかい泥が積もっており、10cm ほど足が沈み込む状態であった。



ビオトープ



花壇



いのちの森



草地

図Ⅱ-3-1 調査地（南長崎はらっぱ公園）

(2) 清和小学校

校庭の北東側に畑、田んぼ、ビオトープ池が整備されている。ビオトープ池は平成 21 年に造成され、ボランティアの方が手入れをされている。幅約 7m、奥行き約 3.8m、水深は約 15cm である。池の中や周りに高低差をつけて造られているが、隣地に土壌が流れたため土を入れ替えたばかりということであった。田んぼは業者が管理している。

校庭を囲むように植栽地があり、南西側は「学校の森」記念植樹（平成 30（2018）年）がされている。通用口の前にもコンクリート池がある。



畑



田んぼ



ビオトープ池



校舎横の植栽地

図 II - 3 - 2 調査地（清和小学校）

(3) 池袋第三小学校

平成29年に新校舎が完成し、ビオトープもその際に造られた。校庭の南西側にあり、通常鍵がかけられ、人が立ち入れないようになっている。ビオトープ全体は幅約5.5m、奥行き約4.5mの三角形で、その中に約1m四方の池がある。水深は約20cmである。池には幅10cmほどの水路が2本つながり、学校敷地の外側の水場と隣接している。巣箱や、ヒマワリの種を入れたペットボトル製のバードフィーダーが設置されている。

校庭を囲むように植栽地があり、校舎側は花壇となっている。「学校の森」記念植樹(平成30(2018)年)がされている。



ビオトープ全景



校庭南側の植栽地



校庭東側の植栽地



校庭西側の植栽地

図Ⅱ-3-3 調査地(池袋第三小学校)

(4) 目白小学校

校庭と、3階の屋上緑地で調査を行った。便宜的に、屋上緑地を『屋上ビオトープ』、校庭の東側の緑地を『校庭ビオトープ』とする。

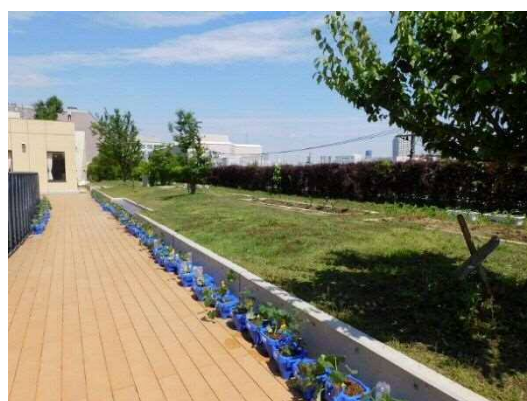
屋上ビオトープは「めじろファーム」と名付けられ、平成26年の校舎建設とともに造成された。畑と芝地を中心とし、東側にひょうたん型の池がある。池は幅約3m、奥行き約1.5mで、水深は深い場所で約20cmである。池の周囲には低木が植栽されている。

校庭ビオトープは「めじろの森」と名付けられた「学校の森」記念植樹（平成21（2009）年）の植栽地であり、中に池が設けられている。池は幅約4.5m、奥行き約3m、水深は10～20cmである。

校庭を囲むように北側と南側にも植栽地があり、南側は「学校の森」記念植樹（平成30（2018）年）がされている。



屋上ビオトープ



屋上ビオトープ



校庭ビオトープ



校庭ビオトープ

図Ⅱ-3-4 調査地（目白小学校）

4. 評価方法

確認種の中から希少種および外来種の抽出を行い、区内の動植物相を考察する一助とした。

(1) 国および都レッドリスト記載種

環境省が作成しているレッドリスト（「環境省レッドリスト 2020」以下、国 RL）と、東京都が作成しているレッドリスト（「東京都レッドリスト（本土部）2020 年版」以下、都 RL）に記載されている種の抽出を行った。

表Ⅱ－4－1に各カテゴリーの基本概念を示す。

表Ⅱ－4－1 国および都レッドリストのカテゴリー区分

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
留意種	*	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、次の①～⑧の選定理由のいずれかに該当し、留意が必要と考えられるもの <選定理由> ①準絶滅危惧(NT)に準ずる ②過去の環境改変により、生息地が限定されていたり、孤立個体群がある ③人為的な環境配慮により個体群が維持されている ④外来種の影響に注意する必要がある ⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている ⑥自然の回復状況をあらわしている ⑦良好な環境の指標となる ⑧タイプロカリティ(基準産地、模式産地)
ランク外 (都RLのみ)	○	当該地域で生育・生息が確認されているが、上記カテゴリーに該当しないもの
データ無し (都RLのみ)	—	当該地域において生育・生息している(していた)可能性があるが、確実な記録や情報が得られなかったもの
非分布 (都RLのみ)	・	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。但し、鳥類では、確認記録があっても当該地域が主たる生息域でないと判断される場合は、非分布として扱った。

(2) 外来種

外来種として、環境省及び農林水産省が作成した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」（以下、「生態系被害防止外来種リスト」）に記載されている種の抽出を行った。この中には「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（以下、「外来生物法」）で指定された特定外来生物*も含まれる。

表Ⅱ-4-2に各カテゴリーの概念を示す。

* **特定外来生物**：外来生物（海外起源の外来種）であり、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される。生きているものに限られ、個体だけでなく、卵、種子、器官なども含まれる。飼育、栽培、保管及び運搬、輸入が原則禁止されている。また、野外へ放つ、植える及びまくこと、譲渡し、引渡しなどをすることが禁止され、許可を受けて飼養等をする場合は個体識別等の措置を講じる義務がある。

表Ⅱ-4-2 生態系被害防止外来種リストのカテゴリー区分

カテゴリー	概念
(1) 定着を予防する外来種 (定着予防外来種)	国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種。
(i) 侵入予防外来種	国内に未侵入の種。特に導入の予防、水際での監視、バラスト水対策等で国内への侵入を未然に防ぐ必要がある。
(ii) その他の定着予防外来種	侵入の情報はあがるが、定着は確認されていない種。
(2) 総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)	国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除（野外での取り除き、分布拡大の防止等）、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種。
(i) 緊急対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方にに基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。
(ii) 重点対策外来種	「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方にに基づき、被害の深刻度に関する基準として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。
(iii) その他の総合対策外来種	総合対策外来種のうち、緊急対策外来種、重点対策外来種に該当しないもの。
(3) 適切な管理が必要な産業上重要な外来種 (産業管理外来種)	産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系等への影響がより小さく、同等程度の社会経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。利用にあたっては種ごとに示す利用上の留意事項に沿って適切に管理を行うことを呼びかけるもの。

緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方：

（被害の深刻度に関する基準）

- ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対し甚大な被害を及ぼす（対策の実効性、実行可能性）
- ⑤ 防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る。

第三章 動植物生態調査結果

1. 植物調査

(1) 調査結果概要

植物は、117科 434種類が確認された（表Ⅲ－1－1）。変種や品種、園芸品種など、種レベル以下の分類も含まれるため、種ではなく種類と表している。

調査地ごとに見ると、南長崎はらっぱ公園 245 種類、清和小学校 203 種類、池袋第三小学校 116 種類、目白小学校 193（屋上ビオトープ 102、校庭ビオトープ 144）種類であった。

(2) レッドリスト記載種

15種が確認された（表Ⅲ－1－2）。いずれも植栽とみられる。

清和小学校のイヌタヌキモは、他種に混ざって持ち込まれるなどの非意図的な植栽と考えられる。通用口前のコンクリート池にも生育しており、ビオトープ池から株分けされたものようであった。

表Ⅲ－1－2 確認されたレッドリスト記載種（植物）

科名	種名	南長崎 はらっぱ 公園	清和 小学校	池袋 第三 小学校	目白小学校		国RL	都RL (区部)	備考
					屋上	校庭			
スイレン科	ヒツジグサ		●					EX	植栽
ドクダミ科	ハンゲショウ	●						EN	植栽
ショウブ科	ショウブ		●					VU	植栽
ユリ科	タイワンホトトギス		●					CR	植栽
ラン科	シラン	●						NT	植栽
アヤメ科	カキツバタ			●				NT	EN 植栽
ガマ科	ミクリ	●						NT	VU 植栽
マンサク科	トキワマンサク			●	●	●		EN	植栽
ナデシコ科	カワラナデシコ		●					EX	植栽
アカネ科	ハクチョウゲ					●		EN	植栽
ムラサキ科	ムラサキ			●				EN	EX 植栽
シソ科	コムラサキ	●				●		CR	植栽
タヌキモ科	イヌタヌキモ		●					NT	DD (植栽)
ミツガシワ科	ミツガシワ	●						CR	植栽
	アサザ		●			●		NT	EN 植栽
14	15	5	6	3	1	4	9	11	
						4			



イヌタヌキモ（花茎）

（令和3年10月19日 清和小学校）



イヌタヌキモ（水中葉）

（令和3年10月19日 清和小学校）

図Ⅲ－1－1 主なレッドリスト記載種（植物）

(3) 生態系被害防止外来種リスト記載種

生態系被害防止外来種リスト記載種は、33種が確認された（表Ⅲ－1－3）。

清和小学校では、特定外来生物のオオフサモが確認された。本種は淡水性の水草で、旺盛に栄養繁殖し在来の水草に影響を及ぼす。清和小学校では、国および都 RL 記載種のイヌタヌキモがオオフサモと混生しており、今後の影響が懸念される。

その他、各調査地における生態系被害防止外来種リスト記載種については「3. 各調査地の確認状況」で述べる。

表Ⅲ－1－3 確認された生態系被害防止外来種リスト記載種（植物）

生態系被害防止外来種リストカテゴリ	種名	南長崎はらっぱ公園	清和小学校	池袋第三小学校	目白小学校		備考
					屋上	校庭	
緊急対策外来種	オオフサモ		●				特定外来生物
重点対策外来種	オオサンショウモ	●					
	スイレシ属の一種	●				●	植栽 園芸スイレシ
	オオカナダモ		●			●	植栽
	キショウブ		●				植栽
	ホテイアオイ	●	●				植栽
	メリケンガヤツリ				●		
	コマツヨイグサ			●			
	ニワウルシ	●					
	アフリカハウセンカ		●			●	植栽
	トウネズミモチ	●	●		●	●	一部植栽
	アサガオ		●	●	●		植栽
	フサフジウツギ		●		●		
	セイタカアワダチソウ	●	●	●	●	●	
	セイヨウタンポポ	●	●	●	●	●	
その他の総合対策外来種	メリケンカルカヤ				●	●	
	ハルガヤ				●		
	オオクサキビ		●				
	シマスズメノヒエ	●		●			
	ヒイラギナンテン					●	植栽
	アレチヌスビトハギ				●	●	
	カザンデマリ	●			●		植栽
	ムシトリナデシコ	●					
	マルバフジバカマ	●					
	ムラサキカッコウアザミ	●					植栽 アゲラタム
	キク属の一種	●					植栽 栽培キク属
アメリカオニアザミ		●		●			
ヒメジョオン	●		●				
その他の総合対策外来種 国内由来	シュロ		●				植栽
産業対策外来種	オニウシノケグサ			●			
	ハリエンジュ	●					
	ビワ	●	●	●		●	植栽
	キウイフルーツ		●				植栽
	33	16	15	8	11	10	
					16		



繁茂しているオオフサモ
赤い丸はイヌタヌキモの花
(令和3年10月19日 清和小学校)

図Ⅲ－1－2 主な生態系被害防止外来種リスト記載種（植物）

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(1/5)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ 公園	清和 小学校	池袋 第三 小学校	目白 小学校		国RL	都RL (区部)	外来種	備考
						屋上	校庭				
トクサ科	1	スギナ	●	●	●	●	●				
	2	トクサ		●	●	●	●				植栽
カニクサ科	3	カニクサ			●	●	●				
サンショウモ科	4	オオサンショウモ	●							総合-重点	
イノモトソウ科	5	イノモトソウ			●						
メンダ科	6	イヌワラビ	●	●		●	●				
ヒメシダ科	7	イヌケホシダ			●						
オシダ科	8	オニヤブソテツ			●						
	9	ヤブソテツ			●						
イチヨウ科	10	イチヨウ	●	●	●						植栽
マツ科	11	ヒマラヤスギ		●			●				植栽
ヒノキ科	12	モントレーイトスギ			●						植栽
	13	イブキ		●							植栽
	14	カイツカイブキ		●							植栽
マキ科	15	イヌマキ	●								植栽
スイレン科	16	ヒツジグサ		●					EX		植栽
	17	スイレン属の一種	●				●			総合-重点	植栽 園芸スイレン
マツバサ科	18	シキミ	●								植栽
センリョウ科	19	センリョウ	●	●							植栽
ドクダミ科	20	ドクダミ	●	●	●	●	●				
	21	ハンゲショウ	●						EN		植栽
モクレン科	22	ハクモクレン		●							植栽
	23	コブシ	●		●		●				植栽
クスノキ科	24	クスノキ	●								植栽
	25	ゲッケイジュ		●			●				植栽
	26	タブノキ	●								植栽
ショウブ科	27	ショウブ		●					VU		植栽
	28	セキショウ		●	●						植栽
トチカガミ科	29	オオカナダモ		●			●				植栽
ヤマノイモ科	30	ヤマノイモ	●		●	●				総合-重点	植栽
	31	ナガイモ			●						
ユリ科	32	タイワンホトギス		●					CR		植栽
ユリズイセン科	33	ユリズイセン属の一種		●							植栽
ラン科	34	シラン	●						NT		植栽
アヤメ科	35	シャガ	●				●				植栽
	36	カキツバタ			●				NT	EN	植栽
	37	キショウブ		●						総合-重点	植栽
ススキノキ科	38	キダチアロエ		●							
ヒガンバナ科	39	ムラサキキンシラン属の一種	●								植栽 アガパンサス
	40	ノビル	●	●			●				
	41	ヒガンバナ	●	●			●				植栽
	42	スイセン	●	●							植栽
	43	ハタケニラ				●					
	44	タマズダレ			●						植栽
	45	アスパラガス				●					植栽
クサスギカズラ科	46	ハラソ	●	●							植栽
	47	オリヅルラン		●			●				植栽
	48	ドイツスズラン	●	●							植栽
	49	コバギボウシ	●		●						植栽
	50	ヤブラン		●	●		●				植栽
	51	ジャノヒゲ		●			●				植栽
	52	ナガバジャノヒゲ	●	●	●		●				植栽
	53	オモト	●	●							植栽
ヤシ科	54	シュロ		●						国内-総合-その他	植栽
ツユクサ科	55	ツユクサ	●	●		●					
	56	ヤブミョウガ	●	●							
ミズアオイ科	57	ホテイアオイ	●	●						総合-重点	植栽
カンナ科	58	ハナカンナ	●								植栽
ガマ科	59	ミクリ	●						NT	VU	植栽
	60	ヒメガマ		●	●						植栽
イゲサ科	61	イゲサ	●								
	62	クサイ					●				
カヤツリグサ科	63	マスキサ	●	●			●				
	64	ナキリスゲ	●	●			●				
	65	アオスゲ					●				
	66	チャガヤツリ	●								
	67	タマガヤツリ		●							
	68	コゴメガヤツリ			●	●					
	69	カヤツリグサ				●					
	70	ハマスゲ	●	●							
	71	メリケンガヤツリ				●				総合-重点	
	72	ヒメクグ	●			●					
	73	フトイ	●	●	●	●	●				
イネ科	74	ノハラズメノテツポウ		●			●				
	75	メリケンカルカヤ				●	●			総合-その他	
	76	ハルガヤ				●				総合-その他	
	77	コバンソウ	●								
	78	ヒメコバンソウ	●								
	79	イヌムギ	●	●							
	80	ジュズダマ	●	●							植栽
	81	ギョウギシバ				●	●				
	82	メヒシバ	●	●	●	●	●				
	83	コメシシバ	●	●	●	●	●				
	84	アキメシシバ			●						
	85	ヒメイヌビエ		●							
	86	オヒシバ	●	●			●				
	87	アオカモジグサ				●					
	88	カモジグサ	●	●		●	●				
	89	カゼクサ				●					
	90	コスズメガヤ	●			●					
	91	ケナンチガヤ	●								
	92	オニウシノケグサ			●					産業	
	93	アシボソ			●						
	94	オギ					●				
	95	ススキ	●	●							一部植栽
	96	コネズミガヤ	●								

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(2/5)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ 公園	清和 小学校	池袋 第三 小学校	目白 小学校		国RL	都RL (区部)	外来種	備考
						屋上	校庭				
イネ科	97	チヂミザサ						●			
	98	イネ		●							植栽
	99	ヌカキビ	●	●							
	100	オオクサキビ		●							総合-その他
	101	シマスズメノヒエ	●		●						総合-その他
	102	ヨシ	●								
	103	アズマネザサ	●	●							
	104	ミゾイチゴツナギ		●				●			
	105	アオスズメノカタビラ	●	●			●				
	106	ヒエガエリ	●	●							
	107	アキノエノコログサ	●	●	●						
108	エノコログサ	●	●	●		●	●				
109	ムラサキエノコロ	●									
110	トウモロコシ					●					植栽
111	シバ						●				植栽
ケシ科	112	ムラサキケマン		●							
	113	タケニグサ	●		●						
	114	ナガミヒナゲシ	●	●	●		●				
アケビ科	115	ミツバアケビ	●								植栽
ツツラフジ科	116	アオツツラフジ	●								
メギ科	117	ナリヒラヒイラギナンテン			●						植栽
	118	ヒイラギナンテン					●				総合-その他
	119	ナンテン	●	●	●	●	●				植栽
キンボウゲ科	120	シュウメイギク		●							植栽
	121	ヒエンソウ	●								植栽
	122	クロタネソウ	●								ニゲラ
スズカケノキ科	123	モジバズカケノキ		●							ブラタナス
ツゲ科	124	フックソウ			●						植栽
マンサク科	125	ヒュウガミズキ	●								植栽
	126	トキワマンサク			●		●	●	EN		植栽
	127	アカバナトキワマンサク					●	●			植栽
ユズリハ科	128	ユズリハ	●					●			植栽
	129	ヒメユズリハ	●					●			植栽
	130	コモチマンネングサ		●	●						
ベンケイソウ科	131	ツルマンネングサ			●						
	132	ヨコハママンネングサ	●								植栽
	133	オオフサモ		●							特定外来
アリトウグサ科 ブドウ科	134	ヤブガラシ	●	●	●	●	●				
	135	ツタ	●	●	●	●	●				
	136	ブドウ					●				植栽
	137	ネムノキ	●								植栽
マメ科	138	オジギソウ		●							植栽
	139	ヤブマメ	●								植栽
	140	ヒメエンシダ			●						植栽
	141	アレチヌスビトハギ					●	●			総合-その他
	142	スイートピー	●								植栽
	143	ヤマハギ			●		●				植栽
	144	ミヤギノハギ		●							植栽
	145	インゲンマメ					●				
	146	ハリエンジュ	●								産業
	147	エンジュ	●	●				●			植栽
	148	ムラサキツメクサ						●			
149	シロツメクサ	●	●								
150	ヤハズエンドウ	●	●			●	●				
バラ科	151	キンミズヒキ		●							植栽
	152	アメリカザイフリボク					●				植栽
	153	ボケ	●								植栽
	154	ビワ	●	●	●		●				産業
	155	オランダイチゴ	●								植栽
	156	ヤマブキ	●	●	●		●				植栽
	157	ハナカイドウ	●								植栽
	158	イヌリンゴ		●			●				植栽
	159	カナメモチ		●							植栽
	160	レッドロビン	●					●			植栽
	161	ヘビイチゴ	●	●			●				植栽
	162	ヤマザクラ	●								植栽
	163	ウメ	●	●			●	●			植栽
	164	ソメイヨシノ	●	●	●		●				植栽
	165	サクラ属の一種	●		●						実生 ソメイヨシノ雑種
	166	カリン	●	●				●			植栽
	167	カザンデマリ	●				●				総合-その他
	168	シャリンバイ	●								植栽
	169	バラ属の一種	●	●							植栽 園芸バラ
170	ナナカマド	●								植栽	
171	コデマリ					●				植栽	
172	シモツケ	●				●	●			植栽	
173	ユキヤナギ			●		●	●			植栽	
グミ科	174	ナツグミ		●							植栽
クロウメドモドキ科	175	ナツメ						●			植栽
ニレ科	176	アキニレ						●			植栽
	177	ケヤキ	●	●	●		●				植栽
	178	ムクノキ	●					●			植栽
アサ科	179	エノキ	●	●			●	●			植栽
	180	クワクサ		●			●	●			
クワ科	181	イチジク		●							植栽
	182	ヤマグワ	●	●	●	●	●				植栽
	183	クリ		●							植栽
ブナ科	184	スタジイ	●	●			●				植栽
	185	マテハシイ	●								植栽
	186	クスギ	●	●	●		●				植栽
	187	アラカシ	●					●			植栽
	188	シラカシ	●		●			●			植栽
	189	ウバメガシ			●			●			植栽
	190	コナラ			●			●			植栽
ヤマモモ科	191	ヤマモモ	●								植栽
クルミ科	192	オニグルミ	●								植栽

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(3/5)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ 公園	清和 小学校	池袋 第三 小学校	目白 小学校		国RL	都RL (区部)	外来種	備考
						屋上	校庭				
ウリ科	193	ヘチマ		●			●				植栽
	194	ニガウリ		●	●						植栽 ゴーヤ
シュウカイドウ科	195	シュウカイドウ属の一種				●	●				植栽 ベゴニア
ニシキギ科	196	ニシキギ					●				植栽
	197	マサキ	●	●			●				植栽
カタバミ科	198	イモカタバミ		●	●		●				
	199	ウスアカカタバミ	●	●	●	●	●				
	200	アカカタバミ		●							
	201	カタバミ	●	●	●	●					
	202	ムラサキカタバミ	●	●	●	●	●				
	203	オッタチカタバミ	●	●	●	●	●				
	204	サンカクカタバミ		●							
トウダイグサ科	205	フユカタバミ					●				
	206	エノキグサ	●								
	207	コニシキソウ		●			●	●			
	208	アカメガシワ	●				●	●			
	209	シラキ		●							
ミカンソウ科	210	コミカンソウ		●			●				
	211	ナガエコミカンソウ	●	●	●		●				
ヤナギ科	212	カロリナハコヤナギ		●							植栽
スマレ科	213	タチツボスミレ		●	●						
	214	アメリカスミレサイシン	●	●	●						
オトギリソウ科	215	ハンジュー	●		●		●				植栽
	216	ヒベリクム 'ヒドコート'			●						植栽
フウロソウ科	217	ビヨウヤナギ	●		●		●	●			植栽
	218	アメリカフウロ	●	●			●	●			
ミソハギ科	219	ハナテンジクアオイ	●				●	●			植栽
	220	ヒメソハギ		●							
	221	メキシコハナヤナギ	●								植栽
	222	サルズベリ	●								植栽
	223	ザクロ						●			植栽
アカバナ科	224	ママトツヨイグサ	●								
	225	コマツヨイグサ			●					総合-重点	
ウルシ科	226	ユウゲショウ	●	●							
	227	ヌルデ					●				
ムクロジ科	228	オオモミジ		●			●				植栽
	229	トウカエデ	●								植栽
	230	イロハモミジ	●	●			●				植栽
	231	フウセンカズラ		●	●						植栽
ミカン科	232	キンカン		●							植栽
	233	ユズ		●			●				植栽
	234	ナツミカン		●	●	●					植栽
	235	ウンシュウミカン			●						植栽
	236	ミカン属の一種	●				●				植栽
	237	サンショウ	●								植栽
	238	ニワウルシ	●							総合-重点	
センダン科	239	センダン	●								
アオイ科	240	オクラ		●	●	●					植栽
	241	アオギリ		●							植栽
	242	ムクゲ	●				●				植栽
ジンチョウゲ科	243	ジンチョウゲ	●		●	●	●				植栽
アブラナ科	244	カラシナ		●							植栽
	245	セイヨウアブラナ	●	●							植栽
	246	キャベツ		●	●						植栽
	247	カブ		●							植栽
	248	ナズナ	●	●			●				
	249	タネツケバナ	●								
	250	ミチタネツケバナ		●			●	●			
	251	カラクサナズナ	●								
	252	ショカツサイ		●							
	253	ダイコン		●							植栽
	254	イヌガラシ	●	●							
タデ科	255	ムーレンベッキア属の一種	●								ワイヤーブランツ
	256	ミスヒキ	●								
	257	オオイヌタデ		●							
	258	イヌタデ	●	●	●	●	●				
ナデシコ科	259	ノミノツツリ	●								
	260	ムシトリナデシコ	●							総合-その他	
	261	オランダミミナグサ	●	●			●	●			
	262	カワラナデシコ		●					EX		植栽
	263	ハマツメクサ		●	●						
	264	スイセンノウ	●								植栽
	265	コハコベ	●	●	●		●				
	266	ミドリハコベ		●							
	267	イヌコハコベ	●								
	268	カスミソウ	●								植栽
ヒユ科	269	ヒナタイノコヅチ	●	●							
	270	イヌビユ		●							
	271	ホナガイヌビユ					●				
	272	インホウキギ	●								植栽 コキア
	273	シロザ	●	●							
ヤマゴボウ科	274	ヨウシュヤマゴボウ		●							
オンロイバナ科	275	オンロイバナ	●	●	●						植栽
スベリヒユ科	276	マツハボタン			●						
	277	スベリヒユ						●			
	278	ハナスベリヒユ	●								植栽 ポーチュラカ
	279	ハゼラン						●			
	280	レウイシア コチレドン	●								植栽
ミズキ科	281	ミズキ	●								植栽
	282	ヤマボウシ	●								植栽
	283	ハナミズキ	●	●	●		●				植栽

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(4/5)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ 公園	清和 小学校	池袋 第三 小学校	目白 小学校		国RL	都RL (区部)	外来種	備考	
						屋上	校庭					
アジサイ科	284	ヒメウツギ	●								植栽	
	285	アジサイ	●	●	●		●				植栽	
	286	ガクアジサイ	●				●				植栽	
	287	バイカウツギ	●								植栽	
ツリフネソウ科	288	ホウセンカ					●				植栽	
	289	アフリカホウセンカ		●			●			総合-重点	植栽	
ハナシノブ科	290	シバザクラ	●								植栽	
サカキ科	291	サカキ	●								植栽	
	292	ヒサカキ	●		●						植栽	
	293	モッコク	●	●							植栽	
カキノキ科	294	カキノキ		●							植栽	
サクラソウ科	295	マンリョウ		●							植栽	
	296	オカトラノオ	●								植栽	
	297	コナスビ	●	●								
	298	ヤブツバキ	●				●				植栽	
	299	サザンカ		●							植栽	
エゴノキ科	300	エゴノキ	●			●					植栽	
マタビ科	301	キウイフルーツ		●						産業	植栽	
リョウブ科	302	リョウブ				●					植栽	
ツツジ科	303	ドウダンツツジ		●			●				植栽	
	304	アセビ	●			●	●				植栽	
	305	サツキ	●	●			●				植栽	
	306	キリシマツツジ	●								植栽	
	307	ヒラドツツジ	●	●	●		●				植栽	
	308	アオキ	●				●				植栽	
アカネ科	309	クチナン	●			●	●				植栽	
	310	コクチナン				●	●				植栽	
	311	ヘクソカズラ	●	●	●	●	●					
	312	クササンタンカ		●							植栽	
	313	ハクチョウゲ					●	EN			植栽	
	314	ルリトウフタ	●								植栽	
キョウチクトウ科	315	キョウチクトウ	●								植栽	
	316	テイカカズラ	●		●						植栽	
	317	ムラサキ			●			EN	EX		植栽	
ムラサキ科	318	キュウリグサ	●	●		●					植栽	
	319	コヒルガオ	●	●			●					
ヒルガオ科	320	ヒルガオ	●									
	321	アオイゴケ属の一種	●								ディゴンドラ	
	322	サツマイモ		●	●						植栽	
	323	アサガオ	●	●	●	●				総合-重点	植栽	
	324	エボルブス ピロソス	●			●					植栽	
	325	ニオイハシマツリ	●								植栽	
	326	トウガラシ				●					植栽	
ナス科	327	ピーマン		●	●	●					植栽	
	328	ツクバネアサガオ			●						植栽 ベチュニア	
	329	テリミノイヌホオズキ	●									
	330	アメリカイヌホオズキ	●									
	331	トマト				●					植栽	
	332	ヒヨドリジョウゴ	●	●								
	333	ナス			●	●					植栽	
	334	イヌホオズキ	●	●	●							
	335	タマサンゴ		●							植栽	
	336	ジャガイモ		●							植栽	
	モクセイ科	337	シマトネリコ	●								
		338	ハゴロモジャスミン	●								植栽
		339	ネズミモチ	●	●			●				植栽
		340	トウネズミモチ	●	●		●	●			総合-重点	一部植栽
341		コミノネズミモチ			●						植栽	
342		キンモクセイ	●	●			●				植栽	
343		ヒラギモクセイ	●	●							植栽	
オオバコ科	344	ヒメキンギョソウ	●								植栽	
	345	オオバコ	●									
	346	タチイヌノフグリ	●	●		●	●					
	347	オオイヌノフグリ	●			●	●					
	ゴマノハグサ科	348	フサフジツギ		●		●				総合-重点	
		349	キランソウ				●					
	シソ科	350	セイヨウキランソウ	●								植栽
351		コムラサキ	●				●		CR		植栽	
352		ムラサキシキブ	●			●	●				植栽	
353		シロシキブ	●								植栽	
354		トウバナ		●								
355		コリウス属の一種	●								植栽	
356		カキドオシ	●									
357		ホトケノザ	●	●		●						
358		ラヴァンディンラベンダー	●								植栽	
359		コウスイハッカ	●								植栽 レモンバーム	
360		コショウハッカ	●	●							植栽 ペパーミント	
361		イヌコウジュ					●					
362		アオジソ		●								
363		ハナトラノオ	●		●						植栽	
364		ガラニチカセージ	●								植栽 モドーセージ	
365		ヒゴロモソウ	●				●				植栽 サルビア	
366		シソ科の一種	●	●								
ハエドクソウ科	367	トキワハゼ	●	●			●					
タヌキモ科	368	イヌタヌキモ	●	●				NT	DD		(植栽)	
キツネノマゴ科	369	キツネノマゴ		●								
	370	ムラサキルエリア	●								植栽	
モチノキ科	371	モチノキ	●	●			●				植栽	
	372	ソヨゴ			●						植栽	
キキョウ科	373	キキョウソウ	●									
ミツガシワ科	374	ミツガシワ	●						CR		植栽	
	375	アサザ		●			●	NT	EN		植栽	

表Ⅲ-1-1 植物確認種一覧(5/5)

科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ 公園	清和 小学校	池袋 第三 小学校	目白 小学校		国RL	都RL (区部)	外来種	備考	
						屋上	校庭					
キウ科	376	セイヨウノコギリソウ	●								植栽	
	377	マルバフジバカマ	●							総合-その他		
	378	ムラサキカキコウアザミ	●							総合-その他	植栽 アゲラタム	
	379	モクシュンギク	●		●						植栽 マーガレット	
	380	ヨモギ	●					●				
	381	カントウヨメナ						●			植栽	
	382	シオン属の一種		●							植栽 アスター	
	383	コセンダングサ	●	●	●							
	384	キク属の一種	●							総合-その他	植栽 栽培キク属	
	385	ノアザミ		●							植栽	
	386	アメリカオニアザミ		●			●			総合-その他		
	387	コスモス	●								植栽	
	388	アメリカタカサブロウ		●	●	●						
	389	ダンドボロギク			●							
	390	ヒメジョオン	●		●					総合-その他		
	391	アレチノギク		●								
	392	ヒメムカシヨモギ	●		●	●	●					
	393	ハルジオン	●	●	●	●	●					
	394	オオアレチノギク	●	●	●	●	●					
	395	ツワブキ		●	●			●			植栽	
	396	テンニンギク属の一種	●								植栽 ガイラルディア	
	397	ハキダメギク		●	●	●	●					
	398	ウラジロチチコグサ	●	●	●	●	●					
	399	チチコグサモドキ	●	●	●		●					
	400	クンショウギク属の一種	●								植栽 ガザニア	
	401	シロタエヒマフリ		●	●						植栽	
	402	カミツレ		●							植栽	
	403	ノースポールギク	●		●			●			植栽	
	404	フキ		●	●							
	405	ハハコグサ			●							
	406	ミツバオオハンゴンソウ	●								植栽 ルドベキア	
	407	ノボロギク					●					
	408	セイタカアワダチソウ	●	●	●	●	●			総合-重点		
	409	ノゲシ	●		●	●	●					
	410	ヒロハホウキギク	●									
	411	コウオウソウ属の一種	●	●	●		●				植栽 マリーゴールド	
	412	ナツシロギク	●								植栽	
	413	シロバナタンポポ		●							植栽	
	414	セイヨウタンポポ	●	●	●	●	●			総合-重点		
	415	タンポポ属の一種		●							植栽 在来タンポポ	
	416	オニタビラコ	●		●	●	●					
	417	ヒヤクニチソウ属の一種	●	●	●		●				植栽 ジニア	
	418	キク科の一種	●									
	レンブクソウ科	419	ガマズミ	●								植栽
	スイカズラ科	420	ハナソノツクハネウツギ	●				●				植栽 アベリア
		421	スイカズラ					●				植栽
		422	ニシキウツギ					●				植栽
	423	タニウツギ						●			植栽	
トベラ科	424	トベラ	●								植栽	
ウコギ科	425	カクレミノ	●					●			植栽	
	426	ヤツデ	●	●			●				植栽	
	427	カナリーキツタ						●			植栽	
	428	セイヨウキツタ		●				●			植栽	
	429	キツタ		●							植栽	
	430	ヤドリフカノキ						●			植栽	
	431	チドメグサ		●								
セリ科	432	ニンジン		●							植栽	
	433	セリ	●								植栽	
	434	オルレア グランディフロラ	●								植栽	
117		434	245	203	116	102	144	9	11	33		
						193		15				

国RL:環境省レッドリスト 都RL:東京都レッドリスト

EX:絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

「外来種」は生態系被害防止外来種リスト記載種を示す。

(4) 各調査地の確認状況

1) 南長崎はらっぱ公園

①ビオトープ

池の水域は、ヒメガマ、フトイ、ヨシ、スイレン属の一種（流通名：ヒメスイレン）が優占している。池の上流部には、ミクリ（国 RL：NT、都 RL（区部）：VU）とハンゲショウ（都 RL（区部）：EN）が植栽されているが、ヒメガマ、フトイが優占し個体数は少ない。池の南東部にはミツガシワ（都 RL（区部）：CR）が植栽されている。

池の浮島では、キショウブ（重点対策外来種）、ヨシなどが生育している。

浮遊植物（根を下ろさず水面を漂う植物）として、外来の水生シダであるオオサンショウモ（重点対策外来種）が確認された。近年、水草販売店などで流通しており、意図的に放されたようである。秋季調査の時点で大小 6 個体が確認されている。熱帯性のため野外で越冬する可能性は低いが、生態系被害防止外来種リスト記載種であり注意が必要である。同じ浮遊植物として、昨年度植栽されたホテイアオイ（重点対策外来種）も 1 個体確認された。ザリガニの食痕は見られなかった。

陸域には木本類が植栽されており、季節の花や実が楽しめるようになっている。草本類はヨシ、セイタカアワダチソウ（重点対策外来種）が繁茂し、植栽されたコショウハッカ、セイヨウキランソウなども広がっていた。これらにやや被陰される形でオカトラノオやタマスダレ、キチジョウソウなどが生育していた。

過去 2 年間、池の上流部の浅瀬にオオカワヂシャ（特定外来生物）が生育していたが、今年度は確認されなかった。

②花壇

花の咲く園芸植物が植えられている。春期調査時には、バイカウツギ、アジサイ、ニオイバンマツリなどの低木や、ハナスベリヒユ（ポーチュラカ）、パンジー、クンショウギク属の一種（ガザニア）などの草本が開花していた。秋期調査時には、ヒヤクニチソウ属の一種（ジニア）、ムラサキカッコウアザミ（アゲラタム）、コウソウソウ属の一種（マリーゴールド）、エボルブルス ピロスス（通称：アメリカンブルー）などが開花していた。

③いのちの森

常緑広葉樹を中心とした植樹林である。高木にシラカシ、タブノキ、クスノキなどが、低木にトベラ、シモツケ、クチナシ、ハナヅノツクバネウツギ（アベリア）などが植栽されている。林床植生はあまり見られず、高木の実生と、マルバフジバカマ（その他の総合対策外来種）などの草本類が点在している。隣家との境界のフェンスには、樹林地の林縁を好むアオツヅラフジが生育していた。また、トウネズミモチ（重点対策外来種）、シュロ（国内由来—その他の総合対策外来種）、ビワ（産業対策外来種）が実生で生育していた。南側の林地では、ハリエンジュ（産業対策外来種）が生育していた。

④草地

公園の大部分が草地である。シロツメクサとアオイゴケ属の一種（ディコンドラ）を中心に、所々でコナスビ、カタバミ、セイヨウタンポポ（重点対策外来種）などが確認された。

公園の南側から南東部にかけて生育している、ニワウルシとトウネズミモチ（いずれも重点対策外来種）は、一度伐採されたようだが切り口から萌芽していた。



ハンゲショウ(令和3年5月28日)



オオサンショウモ(令和3年10月20日)



ニオイバンマツリ(令和3年5月28日)



ヒャクニチソウ属の一種(ジニア)
(令和3年5月28日)



ハナゾノツクバネウツギ(アベリア)
(令和3年5月28日)



イヌタデ(令和3年10月20日)



ニワウルシ (令和3年10月20日)



ハリエンジュ (令和3年10月20日)

図Ⅲ-1-3 確認された主な植物 (南長崎はらっぱ公園)

2) 清和小学校

①ビオトープ池

沈水植物（水中に生育する植物）としてオオカナダモとイヌタヌキモが、浮葉植物（水面に葉を広げる植物）としてアサザとヒツジグサが、抽水植物（半分水に浸かった状態で生育する植物）としてオオフサモ、キシノウブ、ショウブ、フトイ、ヒメガマが植栽されている。調査時は、ヒツジグサ以外は開花を確認した。イヌタヌキモ、アサザ、ヒツジグサ、ショウブは国または都 RL 記載種である。オオフサモは特定外来生物、オオカナダモとキシノウブは生態系被害防止外来種リストで重点対策外来種に指定されている。狭い面積に侵略性の高い外来種と希少種が混生していることが特徴である。

池の周囲には、トクサやジュズダマ、ヘビイチゴ、アメリカオニアザミ（その他の総合対策外来種）などが生育している。アメリカオニアザミは種子が風で辿り着きビオトープに定着したもののようである。アザミ類は同校の校章として親しまれ、積極的に保護、植栽がされている。周囲に複数置かれたコンテナにはオオフサモ、イヌタヌキモ、ヒメガマ、アサザが生育し、オオフサモは陸地に逸出していた。

②畑・田んぼ

ビオトープ池がある緑地に、畑と田んぼが併設されている。畑では、春期にはジャガイモやキャベツ、秋期にはヘチマやピーマンなどが栽培されていた。

田んぼには、ヒメミソハギやタマガヤツリといった都市では少ない在来草本が生育しており、土壌とともに持ち込まれたものと思われる。ヒメミソハギは東京都では指定がないが、埼玉県など 15 の府県ではレッドリストに指定されている。

その他、この区画には木本類としてイヌリンゴ、ナツグミ、クリ、ウメ、ナツミカンなどの果樹や、ハナミズキ、ミヤギノハギなど花を楽しめる樹木が植栽されている。草本類ではムラサキケマンやヌカキビ、ノハラスズメノテッポウなど、郊外の路傍や畑地に多い種が見られた。

③グラウンド周囲の植栽地

ビオトープの手前には、カロリナハコヤナギ（カロリナポプラ）とカイヅカイブキが植えられている。グラウンドを囲むように、ヒマラヤスギ、エンジュ、ゲッケイジュ、ユズなどの植栽がある。南東側にはビワやキウイフルーツ（いずれも産業対策外来種）が植栽されていた。

校舎の周囲は花壇になっており、園芸バラ、オジギソウ、シュウメイギクといった園芸植物が植えられている。通用口の前にはコンクリート池があり、ホテイアオイとオオカナダモ（いずれも重点対策外来種）、イヌタヌキモ（国 RL : NT、都 RL（区部） : DD）が入れられていた。

全体として、今年度調査した 3 校の中では最も植物相が多かった。



キショウブ (令和3年5月25日)



ショウブ (令和3年5月25日)



ヒメソハギ (令和3年10月19日)



クリ (令和3年5月25日)



ビワ (令和3年5月25日)



キウイフルーツ (令和3年5月25日)



シュウメイギク (令和3年5月25日)



ホテイアオイ (令和3年10月19日)

図Ⅲ-1-4 確認された主な植物 (清和小学校)

3) 池袋第三小学校

①ビオトープ

ビオトープのフェンスにはテイカカズラが這っている。高木としてコナラとウンシユウミカンが植栽され、どちらも秋期には結実していた。低木としてアジサイ、ヤマブキ、ヤマハギなどが、草本はコバギボウシ、タマスダレ、セキショウなどが植栽されている。池の一部には抽水植物であるカキツバタ（国RL：NT、都RL（区部）：EN）、フトイ、ヒメガマが植えられている。沈水植物、浮葉植物はなかった。ビオトープの面積が小さいため、それぞれの個体数は少ない。非植栽と思われるものとしてノゲシ、タケニグサ、シダ類のヤブソテツなどが確認された。

②グラウンド周囲の植栽地

南側は、高木はシラカシが列植され、低木は園芸品種のヒペリクム‘ヒドコート’が植栽されている。草本は、非植栽と思われる外来種のアメリカスミレサイシンと、在来種のタチツボスミレが2個体ずつ生育していた。アメリカスミレサイシンは園芸のものが逸出、野生化し、近年増加しているが、本調査地ではタチツボスミレと競合するほどではないと思われる。

東側は、比較的面積のある植栽地になっていて、高木はソヨゴ、トキワマンサク、ナツミカン、ハナミズキなどが植えられている。低木はコクチナシ、ジンチョウゲ、ナンテンなどが、草本はヤブランが植栽され、花や実を楽しめる種類を中心に植えられていた。そこにセイタカアワダチソウ（重点対策外来種）やコセンダングサ、オオアレチノギクといった外来の一年生草本が侵入していた。シダ類では、つる性のカニクサや、暖地性の種であるイヌケホシダが見られた。

西側はコミノネズミモチやヒラドツツジが植えられ、下層にはフッキソウ、モクシユンギク（マーガレット）が植えられている。事務員の方によると、花を植えても児童がいたずらで抜いてしまうとのことであった。

校舎沿いの花壇では、同校の校章であるムラサキをはじめ、コウオウソウ属の一種（マリーゴールド）やパンジーが植えられている。一部は畑となっており、ナス、オクラ、キャベツなどが栽培されていた。緑のカーテンとしてフウセンカズラ、ニガウリ（ゴーヤ）、アサガオ（重点対策外来種）が植えられていた。



コナラ (令和3年10月20日)



カキツバタ (令和3年5月28日)



ヒペリクム'ヒドコート' (令和3年5月25日)



アメリカスミレサイシン (令和3年5月25日)



タチツボスミレ (令和3年5月25日)



イヌケホシダ (令和3年10月20日)



イヌタデ (令和3年10月20日)



ムラサキ (令和3年10月20日)

図Ⅲ-1-5 確認された主な植物 (池袋第三小学校)

4) 目白小学校

①屋上ビオトープ

畑があり、トマト、ナス、インゲンマメなどが育てられている。作物の下には、メリケンガヤツリ（重点対策外来種）、ホナガイヌビユ、コニシキソウなどの外来草本を中心に、ホトケノザ、キランソウといった在来草本も一部見られた。

畑の周囲は芝地になっており、アメリカザイフリボク（ジューンベリー）やイヌリンゴ、エゴノキなどの実のなる樹木を中心に植栽されている。トウネズミモチ（重点対策外来種）も植栽されており、秋期には結実を確認した。草本類はヘビイチゴやセイタカアワダチソウ（重点対策外来種）などが生育していた。

東側の池では、フトイとイネ科の一種が池の全面で生育していた。秋期調査時は水深が10cm程度と浅く、水中では藻類のアオミドロが繁茂していた。水際に、湿地性の種であるアメリカタカサブロウが見られた。

池の周囲はシモツケ、クチナシ、コクチナシ、アセビなどの低木が中心で、明るい環境である。その中に実生で侵入したと思われるアカメガシワが高さ2m以上に生長していた。

外周はトキワマンサクとアカバナトキワマンサクの生垣となっている。生垣の下にはエノキ、カザンデマリ（ヒマラヤトキワサンザシ）、ヤマグワ、スイカズラ、ムラサキシキブなど鳥散布種子をもつ樹木の実生が生育しており、この屋上緑地が鳥類の採餌場や休息地として利用されていることがうかがえた。

②校庭ビオトープ

ビオトープ池は「学校の森」記念植樹の植樹林（通称：めじろの森）の中にあり、クヌギとイロハモミジに覆われた日陰の環境である。沈水植物としてオオカナダモ（重点対策外来種）が、浮葉植物としてスイレン属の一種（重点対策外来種）とアサザ（国RL：NT、都RL（区部）：EN）が、抽水植物としてフトイが植栽されている。林地側は暗いため、日照を求めて校庭側でよく生育している。

植樹林の樹木は樹高が低く生長途中である。高木になる樹種として、クヌギ、シラカシ、コナラ、コブシ、イロハモミジ、ユズリハ、トウネズミモチ（重点対策外来種）、モチノキ、ビワ（産業対策外来種）などがあつた。亜高木になる樹種として、カクレミノ、キンモクセイ、カリン、ヤブツバキ、ヤマグワなどが、低木としてナンテン、アオキ、クチナシ、ヤツデ、ニシキギなどが植栽されていた。

南東側にはケヤキの大木があり、周囲に実生が多数見られた。

③校庭北側の植栽地

木本類ではドウダンツツジやユズ、ナツメなどが、草本類ではツワブキやヤブランなどが植栽されている。秋期調査時には、林縁などに生育する草本のイヌコウジュが1個体確認された。ナツメの下では外来種のフヨウカタバミが生育していた。

④校庭南側の植栽地

「学校の森」記念植樹が平成30（2018）年に行われている。木本類ではヒラドツツジ、ビヨウヤナギなどが、草本類では山野草であるカントウヨメナなどが植栽されている。その他、隣接する街路からの逸出でウバメガシが、屋上ビオトープに植栽されているブドウが鳥散布によってか実生で生育していた。

校舎の南側には樹齢80年を超えるヒマラヤスギの大木があり、学校のシンボルとなっている。



アメリカザイフリボク (令和3年5月25日)



トウネズミモチ (令和3年10月19日)



セイトカアワダチソウ (令和3年10月19日)



シモツケ (令和3年5月25日)



フトイ (令和3年5月25日)



ニシキギ (令和3年10月19日)



ナツメ(令和3年10月19日)



カントウヨメナ (令和3年10月19日)

図Ⅲ-1-6 確認された主な植物 (目白小学校)

(5) 考察

1) 南長崎はらっぱ公園

確認種類数は、令和元年度は216、令和2年度は237、今年度は245と年々増加している。花壇やビオトープを管理されている区民団体の方々の努力によるところが大きい。

ビオトープではヨシ、フトイ、ヒメガマが優占している。在来生物の隠れ家としてフトイやヒメガマの刈り残しを行っているが、ミクリ（国RL：NT、都RL（区部）：VU）やハンゲショウ（都RL：EN）の個体数が少ないため、生育する上流部では刈り取りの強度を高めた方が良いと思われる。植栽由来ではあるが、希少種が生育できる環境であること、それを維持していることは、他の在来種にとっても良いバランスで環境を保っていることの1つの目安となる。

秋期調査において、1 個体ではあるが、昨年度植栽されたホテイアオイがアメリカザリガニの食痕がない状態で見つかった。これまでの駆除によりザリガニの捕食圧が下がっていることを示す結果といえる。意図的に放されたと思われるオオサンショウモは、ザリガニの捕食対象であるか定かでないが、野外で越冬するかどうかも含めホテイアオイとともに増え方、減り方を注視する必要がある。両種とも生態系被害防止外来種リストの重点対策外来種に指定されており、増えすぎると水中を被陰し他種に影響を及ぼすことから、生育状況次第では除去が望まれる。

公園全体としては、管理が必要な外来種が散見される。いのちの森には、トウネズミモチ（重点対策外来種）、シュロ（国内由来—その他の総合対策外来種）、シマトネリコ（生態系被害防止外来種の指定はないが、国内由来の外来種）といった樹木の実生が生育している。ビワ（産業対策外来種）は結実個体から鳥散布や重力散布（落果して散布されるもの）で発芽している。供給源を断つことはできないため、実生を見つけ次第抜き去ることが望ましい。草本のマルバフジバカマは耐陰性があり、樹林内に侵入し林床植生に影響を及ぼすとされる。いのちの森に点在し、個体数を増やしていることから、晩夏から秋の開花時に除草できると良い。

ハリエンジュ（産業対策外来種）と、公園の南東部に生育しているニワウルシとトウネズミモチ（いずれも重要対策外来種）は、すでに一定程度の大きさに生長している。繰り返し萌芽するため完全な除去は難しいが、今後も定期的な伐採で種子散布を防ぐことが望ましい。

2) 清和小学校

今年度調査した 3 校の中では比較的地歴が古く、湿り気のある環境を好む在来草本が多く見られた。学校のビオトープが都市においては在来生物の砦として機能し、貴重な環境になっていることがうかがえた。

ビオトープ池のイヌタヌキモ（国RL：NT、都RL（区部）：DD）は積極的に保全したい種である。本種が好む溜め池の環境が全国的に減りつつあり、偶発的に持ち込まれたものとしても貴重な生育場所である。

池周辺で繁茂しているアメリカオニアザミ（その他の総合対策外来種）は、アザミ類の中でも大型で棘が鋭いため、安全面、また生物多様性の観点からみても在来種に切り替えたいところである。関東に自生するアザミ類として、ノアザミやタイアザミが挙げられる。ノアザミは1株、植栽されていた。

オオフサモ（特定外来生物）は優先して駆除する必要がある。ビオトープ池とその周辺に置かれた複数のコンテナに生育しており、周囲の陸域へも逸出していた。根絶

は容易ではなく、根茎の断片からも容易に再生するため丁寧に根を掘り取りビニール袋に入れて処分する必要がある。なお、本種が学校へ持ち込まれた経緯や時期は不明とのことであった。大まかな駆除方法は調査時に先生にお伝えした。

【参考文献】

外来水生植物オオフサモ *Myriophyllum aquaticum*(Vell.)Verdc. の駆除手法の検討
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsrt/40/3/40_437/_pdf

校庭では、ビワ、キウイフルーツ（ともに産業対策外来種）が実生で広がりやすいため、結実後すぐに収穫するなどの対策を行えるとよい。

3) 池袋第三小学校

ビオトープではアメリカザリガニが繁殖している。現在ある水生植物では、カキツバタ（国 RL：NT、都 RL（区部））にザリガニの被害が懸念される。水生植物を追加で植栽する場合、浮葉植物は池の面積が狭いため水面をすぐに覆ってしまう可能性があり、あまり望ましくない。オオカナダモなどの沈水植物であれば、アメリカザリガニ駆除後に少量植栽することは可能と思われる。

4) 目白小学校

屋上ビオトープには、ブドウやヤマグワ、アメリカザイフリボク（ジューンベリー）などの液果（水分を多く含む果実）、エゴノキなどの乾果（果皮が乾燥している果実）といった実のなる樹木が植栽され、それぞれを選好する野鳥が利用できる環境になっている。調査対象外であるが、秋期調査時にヒヨドリとムクドリを確認している。トウネズミモチ（重点対策外来種）も液果をつけ、野鳥にとっては冬場の貴重な食べものだが、実生によって広がりやすい。植栽個体が結実していたため、晩秋までに実を除去することが望ましい。

芝地で今後注意したいのは、風散布による外来草本の侵入である。既にセイタカアワダチソウ（重点対策外来種）やメリケンカルカヤ（その他の総合対策外来種）などが確認されている。屋上の環境では、これらが一種で優占しはびこりやすい。セイタカアワダチソウは蜜源になるため、昆虫類がよく訪れるが、芝地の維持のため数本残して残りは引き抜くといった管理ができるとよい。

ビオトープ池の周りの低木エリアで生育しているアカメガシワは、生長が早く大木になるため、早めに除去することが望ましい。

校庭のビオトープ池は落葉樹の日陰にあり、屋上とは異なる環境が創出されている。落葉が池に沈むとヘドロになって富栄養化し、水中の酸欠、悪臭などの原因となるため、状況に応じて池の中の落ち葉を掬う作業が必要である。アサザやフトイの生育状況によっては、定期的に池の上部の枝を剪定し日照を確保することも検討したい。

校庭ビオトープの植栽は新校舎建設前のものが残されている。広葉樹と常緑樹、陰樹と陽樹など、様々な特性の樹種が植えられており、今後は環境に合わせて淘汰しながら生長していくものと思われる。

2. 昆虫類調査

(1) 調査結果概要

昆虫類は、10目63科132種が確認された(科、属まで判明したものを含む(表Ⅲ-2-1))。

調査地ごとに見ると、南長崎はらっぱ公園73種、清和小学校で58種、池袋第三小学校16種、目白小学校56(屋上ビオトープ28、校庭ビオトープ41)種であった。

令和2年度の南長崎はらっぱ公園97種、南池袋小学校の73種等と比較すると、確認数はやや下回ってはいるが、内容としてはトンボ類を中心に、昨年までと同様の昆虫相を確認できた。池袋第三小学校においては、ビオトープ敷地面積が狭いことと相まって少ない確認数だった。

(2) レッドリスト記載種

国RLおよび都RL(区部)記載種の確認はなかった。

(3) 外来種

生態系被害防止外来種リスト記載種の記録はなかった。

その他の外来種として、南長崎はらっぱ公園においてイヌホオズキクロアブラムシと思われるアブラムシ類を確認した。

南長崎はらっぱ公園、池袋第三小学校、目白小学校においてキマダラカメムシを確認した。この種は1770年代に長崎で初確認されて以来、200年間ほど日本での記録がなく、近年になって目立って確認されるようになった。現在外来種としての扱いは安定していないが、ここでは北上傾向を持つ国内外来種として扱った。

また池袋第三小学校において北米原産のクモガタテントウを確認した。



キマダラカメムシ
(令和3年7月20日 目白小学校)



クモガタテントウ
(令和年7月29日 池袋第三小学校)

図Ⅲ-2-1 確認された主な外来種(昆虫類)

表Ⅲ-2-1 昆虫類確認種一覧(1/2)

目名	科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ 公園		清和 小学校		池袋 第三 小学校		目白小学校				国RL	都RL (区部)	外来種	備考	
				夏	秋	夏	秋	夏	秋	屋上		校庭						
										夏	秋	夏	秋					
カゲロウ トンボ	コカゲロウ イトトンボ	1	コカゲロウ科の一種	●														
		2	ホソミイトトンボ		●													
		3	アジアイトトンボ							●	●							
	ヤンマ	4	ギンヤンマ							●	●							グラウンド上飛翔
		5	クロスジギンヤンマ				●											羽化殻 ビオトープ池
	トンボ	6	ショウジョウトンボ				●											
		7	ウスバキトンボ							●								
		8	シオカラトンボ	●														
		9	オオシオカラトンボ	●			●											
カマキリ バッタ	カマキリ	10	ハラビロカマキリ															
		11	クビキリギス	●	●	●	●			●	●							
	コオロギ	12	モリオカメコオロギ	●		●		●			●	●						
		13	ハラオカメコオロギ	●		●												
		14	ツツレサセコオロギ	●		●												
		15	マダラスズ	●		●												
	ヒバリモドキ	16	シバズ								●							屋上ビオトープ芝生
		17	カネタタキ		●		●				●							
	オンプバッタ	18	オンプバッタ	●	●	●	●		●		●	●						
		19	コバネイナゴ	●		●	●											
カメムシ	ウンカ	20	ホソミドリウンカ								●							
		21	ミドリゲンバイウンカ	●	●													
	セミ	22	アブラゼミ			●						●						
		23	ツクツクボウシ									●						
		24	ミンミンゼミ	●		●												
		25	ニイニゼミ									●						
	ヨコバイ	26	ツマガロオヨコバイ	●	●							●						
		27	ユキヤナギアブラムシ	●														
	アブラムシ	28	イヌホオズキクワアブラムシ?	●														イヌホオズキにつく
		29	アブラムシ科の一種	●														
	カスミカメムシ	30	コアオカスミカメ								●							
		31	カスミカメムシ科の一種								●							
	ヘリカメムシ	32	ホオズキカメムシ	●		●	●											
		33	ハリカメムシ				●											
	ヒメヘリカメムシ	34	アカヒメヘリカメムシ	●		●												
35		フチヒゲヘリカメムシ			●													
イトカメムシ	36	イトカメムシ	●		●					●								
	37	ヒメマダラナガカメムシ				●												
ナガカメムシ	38	ヒメナガカメムシ			●					●	●							
	39	ヒゲナガカメムシ			●	●				●								
	40	ヨツボシヒョウタンナガカメムシ			●	●												
	41	コバネヒョウタンナガカメムシ			●													
カメムシ	42	ヒョウタンナガカメムシ類の一種	●															
	43	キマダラカメムシ	●	●			●	●		●	●						(分布北上種)	
	44	ナガメ	●															
	45	クサギカメムシ									●							
	46	ミナミアオカメムシ	●		●													
	47	ケンカタビロアメンボ									●						校庭ビオトープ池	
アミメカゲロウ	クサカゲロウ	48	カオマダラクサカゲロウ	●														
		49	イトソシアカマダラクサカゲロウ								●							
		50	クサカゲロウ科の一種								●							幼虫 ゴミを背負うタイプ
チョウ	スカシバガ	51	スカシバガ科の一種	●														
		52	ハマキガ科の一種								●							
	セセリチョウ	53	イチモンジセセリ		●		●					●						
		54	チャバネセセリ				●											
	アゲハチョウ	55	ナミアゲハ	●		●		●			●	●						
		56	アオスジアゲハ	●	●													
		57	アゲハチョウ科の一種															
	シロチョウ	58	モンシロチョウ		●													
	シジミチョウ	59	ヤマトシジミ	●	●	●	●		●	●	●	●						
	タテハチョウ	60	ツマガロヒョウモン	●	●		●			●								
	トリバガ	61	ヒメジャノメ	●	●		●											
		62	ブドウトリバ					●										
	ツトガ	63	ツトガ								●							
		64	オオキノメイガ				●											
		65	シバツトガ	●														
	シャクガ	66	フタテシオエダシャク		●													
		67	オオスカシバ	●														
		68	ホシホウジャク	●	●													
	シャチホコガ	69	セスジスズメ			●		●		●	●							
		70	モンクロシャチホコ	●														
ドクガ	71	チャドクガ	●															
	72	ナカグロクチバ								●								
ヤガ	73	オオタバコガ				●												
	74	サンカククチバ								●							幼虫 ビオトープ	
ハエ	ガガンボ	75	ホリガガンボ類の一種			●												
		76	ナガトミヒメムシヒキ	●														
	アシナガバエ	77	アシナガキンバエ類の一種	●				●			●							
		78	ホソヒラタアブ		●													
	ハナアブ	79	ヒメヒラタアブ属の一種	●				●	●	●								
		80	マメヒラタアブ属の一種				●											
	ヤチバエ	81	ヒゲナガヤチバエ								●							
	ハナバエ	82	クロオビハナバエ			●					●							
		83	オオクロバエ			●	●											
	クワバエ	84	キンバエ類の一種	●	●						●	●						
		85	ヒメクワバエ	●														
	ニクバエ	86	イエバエ科の一種				●											
		87	ニクバエ科の一種	●	●	●	●	●										
	ヤドリバエ	88	ヤドリバエ科の一種			●												

表Ⅲ-2-1 昆虫類確認種一覧(2/2)

目名	科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ 公園		清和 小学校		池袋 第三 小学校		目白小学校				国RL	都RL (区部)	外来種	備考
				夏	秋	夏	秋	夏	秋	屋上		校庭					
										夏	秋	夏	秋				
コウチュウ	ハンミョウ	89	トウキョウヒメハンミョウ														
		コガネムシ	90	アオドウガネ	●								●				
			91	コアオハナムグリ				●									
	テントウムシ	92	マメコガネ	●													
		93	シロテンハナムグリ	●													
		94	アカホシテントウ				●										
		95	ニジュウヤホシテントウ	●		●											
		96	ナミテントウ		●		●										
		97	キイロテントウ						●	●							
		98	ダンドラテントウ		●												
		99	クモガタテントウ						●								
100	ヒメクロテントウ類の一種						●										
ハムシダマシ	101	ハムシダマシ		●								●	●				
	ハムシダマシ	102	ウリハムシ									●	●				
		103	クロウリハムシ				●						●		●		
	104	キバラリクビボソハムシ	●														
	105	ルリマルノミハムシ			●												
	106	コマルノミハムシ				●											
	107	サンゴジュハムシ	●														
	108	ドウガネサルハムシ	●			●	●				●		●				
ゾウムシ	109	ヒレルクチフトゾウムシ										●					
	110	スグリゾウムシ	●	●	●								●				
	111	アカアシノミノウムシ											●				
ハチ	ミフシハバチ	112	ルリチュウレンジ				●										
	ハバチ	113	シダハバチ亜科の一種				●										
		114	コンボウアメバチ亜科の一種	●													
	ヒメバチ	115	ヒメバチ科の一種		●								●	●			
		116	ヒメハラナガツチバチ	●			●								●		
	アリ	117	トビイロシワアリ	●													
		118	ハリフトシリアゲアリ								●		●	●			
		119	アメアリ	●													
		120	クロヤマアリ	●	●	●	●				●	●	●	●			
		121	トビイロケアリ	●	●									●	●		
		122	クロオオアリ												●	●	
		123	ウメマツオオアリ	●													
		スズメバチ	124	オオフタオビドロバチ					●						●		
	125		セグロアシナガバチ	●				●	●			●		●			
	126		コアシナガバチ	●													
	127		コガタスズメバチ	●		●	●								●		
128	オオスズメバチ											●					
ハキリバチ	129	ツルガハキリバチ	●														
ミツバチ	130	キムネクマバチ	●	●		●											
	131	セイヨウミツバチ		●													
-	132	小型ハナバチ類の一種	●			●						●	●				
10	63	132		56	35	31	40	11	10	14	23	27	24	0	0	0	
				73		58		16		28		41					
										56							

国RL:環境省レッドリスト 都RL:東京都レッドリスト
 「外来種」は生態系被害防止外来種リスト記載種を示す。

(4) 各調査地の確認状況

1) 南長崎はらっぱ公園

①ビオトープ池周辺

夏期調査時、トンボ類では飛翔するシオカラトンボ、オオシオカラトンボを確認した。池周辺ではコバネイナゴの幼虫やオンブバッタといった草地性のバッタ類が見られ、ナミアゲハやアオスジアゲハといったチョウ類が確認できた。北上傾向を示すキマダラカメムシも確認している。またアシナガバチ類やスズメバチの他、花蜜を求めるハチ類の飛来が目立っていた。

秋期調査では、この公園においてはハラオカメコオロギが優占していることが特徴的であった。敷地内では他にモリオカメコオロギ、ツツレサセコオロギの鳴き声も少数確認できたが、ハラオカメコオロギが最も多かった。チョウ類ではヒメジャノメの他、花壇や池周辺にはヤマトシジミが頻繁に訪花していた。

調査時以外であるが、アメリカザリガニ駆除作業の際にクロスジギンヤンマの羽化殻を1つ確認した（「令和3年度 生物多様性支援事業業務報告書」参照）。

②いのちの森

低木や枝が剪定され、前回調査時と比較すると林内の見通しが良くなっていた。

夏季調査ではトンボ類は見られなかったが、バッタ類はクビキリギス、オンブバッタを確認している。チョウ類はアオスジアゲハ、ヤマトシジミを確認した。イトカメムシやキマダラカメムシ、ホオズキカメムシなどのカメムシ類も多く見られた。その他の昆虫類としては、植え込みに飛来するオオスカシバ、シロテンハナムグリやサンゴジュハムシなどのコウチュウ類も確認できた。ツルガハキリバチや小型ハナバチ類などのハナバチ類もよく飛翔していた。

秋期調査では、近年北上傾向にあるホソミイトトンボを確認している。これは成虫越冬する種である。バッタ類はハラオカメコオロギやモリオカメコオロギの他、樹上で鳴くカネタタキを確認した。チョウ類はツマグロヒョウモンやヤマトシジミが確認できた。

2) 清和小学校

①ビオトープ

夏期調査時にはビオトープ池でクロスジギンヤンマの羽化殻を確認しており、この池が繁殖地として利用されていることが確認できた。田んぼ周辺ではショウジョウトンボやオオシオカラトンボも見られた。草むらではオンブバッタやコバネイナゴの幼虫を確認した。またチョウ類ではナミアゲハ、ヤマトシジミが見られた。畑では、植えられた作物を中心に様々な草本類上でヒメヘリカメムシ科に属する小型のカメムシ類が複数種確認できた。

秋期調査ではモリオカメコオロギ、ツツレサセコオロギなど秋の鳴く虫が確認でき、低木の植え込みではカネタタキが鳴いていた。畑周辺ではコバネイナゴ、オンブバッタが見られた。チョウ類ではヤマトシジミの他イチモンジセセリ、チャバネセセリが訪花しており、イネの葉に依存しているものと思われるヒメジャノメも見られた。この他、コアオハナムグリといった訪花性のコウチュウ類も確認できた。

昆虫類ではないが、校庭の樹木の幹では陸産貝類の一種ナミコギセルも確認している。湿度が保たれた林縁の樹幹などで見られる種である。

3) 池袋第三小学校

①ビオトープ

夏期調査ではナミアゲハが頻繁に飛来するのを確認し、敷地周辺に植栽されたミカン科の植え込みでは幼虫も見られた。ビオトープ周辺の植栽ではキマダラカメムシやキイロテントウ、クモガタテントウを確認した。コナラの葉裏では微小なテントウムシ類も確認している。キイロテントウは今回調査の4地点中唯一ここで確認できた種である。夏季、秋季とも確認している。

秋期調査では、オンブバッタ、モリオカメコオロギの鳴き声を確認した。校庭周縁の緑地部分にはヤマトシジミ、ツマグロヒョウモンなどのチョウ類が飛来していた。児童の育てているホウセンカの植木鉢ではセスジスズメの幼虫が確認できた。大型のスズメガ類だが、飛翔力もあり敷地周辺にヘクソカズラやカラスウリなどの草本があれば比較的誘致しやすい種である。

4) 目白小学校

①屋上ビオトープ

夏期調査では、ヤマトシジミを確認した。畑周辺ではヒゲナガカメムシをはじめ、小型のカメムシ類が複数種確認できた。これらは畑地周辺などに生えるイネ科やキク科植物に依存する昆虫類である。またヒメヒラタアブ属の一種が頻繁に訪花していた。そのほか、畑に植えられたトマトなどに誘引されたと思われるウリハムシなどが確認できた。

秋期調査時、開けた芝生の上空ではギンヤンマやウスバキトンボが飛翔し、またアジイトトンボが草地で活動していた。植え込みではカネタタキが、芝地では低茎草地を好むシバスズの鳴き声も確認できた。チョウ類ではナミアゲハを確認している。そのほかツトガやオオキノメイガといった草地を好む種がみられた。

②校庭ビオトープ

夏期調査では、倉庫周辺の草地ではオンブバッタの幼虫がみられ、ヤブガラシなどの茂みでは微小なコウチュウ類であるドウガネサルハムシやアカアシノミゾウムシが確認できた。またナミアゲハ、ヤマトシジミの飛翔が頻繁にみられた。ニイニイゼミも聞かれた。

秋期調査では校庭のトラック上を盛んに飛翔するギンヤンマや、敷地周辺の植え込みで制止するアジイトトンボを確認した。これらトンボ類は屋上ビオトープの草地も利用していると思われる。倉庫周辺ではオンブバッタの成虫がみられ、周辺ではモリオカメコオロギの鳴き声も確認できた。チョウ類では草むらをイチモンジセセリ、ヤマトシジミといった小型の種が飛翔していた。池の周りではヒゲナガヤチバエが確認できた。主に池沼の草藪を好む種であるが、池には抽水植物も植栽されているため、好んで生息しているものと思われる。そのほか、校庭周縁のサクラ類樹幹ではハラビロカマキリがみられた。



アジイトトンボ 雄
(令和3年9月10日 目白小学校)



クロスジギンヤンマ 羽化殻
(令和3年7月20日 清和小学校)



ショウジョウトンボ 雄
(令和3年7月20日 清和小学校)



オオシオカラトンボ 雄
(令和3年7月20日 清和小学校)



モリオカメコオロギ 雄
(令和3年9月10日 清和小学校)



オンブバッタ 雌
(令和3年9月22日 池袋第三小学校)



コバネイナゴ 幼虫
(令和3年7月20日 清和小学校)



ナミアゲハ 幼虫
(令和3年月7日29日 池袋第三小学校)

図Ⅲ-2-2 確認された主な昆虫類 (トンボ類、バッタ類、チョウ類)



ヤマトシジミ
(令和3年7月20日 南長崎はらっぱ公園)



ヒメジャノメ
(令和3年7月20日 南長崎はらっぱ公園)



イチモンジセセリ
(令和3年9月10日 清和小学校)



ナカグロクチバ
(令和3年9月10日 清和小学校)



ハラビロカマキリ
(令和3年9月10日 目白小学校)



ナガメ
(令和3年7月29日 南長崎はらっぱ公園)



ニジュウヤホシtentou
(令和3年7月20日 清和小学校)



ツルガハキリバチ
(令和3年7月29日 南長崎はらっぱ公園)

図Ⅲ-2-3 確認された主な昆虫類 (チョウ類、その他)

(5) 考察

比較的親しみやすく、ビオトープ環境において指標種として扱われるトンボ類、バッタ類、チョウ類の調査状況を概観してみる。

トンボ類

アジアイトトンボのほかギンヤンマ、クロスジギンヤンマといった飛翔力のある種が確認できた。これらは頻繁に移動するので、区内にある他の学校ビオトープも積極的に利用していると思われる。

バッタ類

比較的小規模な草地でも生育できるオンブバッタが、4 地点すべてで確認できた。南長崎はらっぱ公園や清和小学校、目白小学校ではクビキリギスが確認できた。オギやアシなど草本類の刈り残された根元で成虫越冬するためだと思われる。秋季調査では 4 地点すべてでオカメコオロギの鳴き声を確認できた。特異的に、南長崎はらっぱ公園ではハラオカメコオロギが優先して確認できた。

チョウ類

ナミアゲハ、ヤマトシジミが 4 地点で確認できた。アゲハ類については、幼虫の食樹となるミカン科の木が校庭に植栽される例が多いことが要因のひとつであろう。ヤマトシジミについても、食草となるカタバミが普通にみられる草本であり、利用頻度が高いため確認例が多かったと思われる。その他、秋になると北上傾向を示すイチモンジセセリ、チャバネセセリが清和小学校で確認されたが、畑地周辺の様々な草本類に訪花していた。ヒメジャノメが南長崎はらっぱ公園や清和小学校でみられたが、これはイネ科に依存する本種がイネのほか池畔のアシなども利用するためである。

今回の調査では、ビオトープ環境としていくつかのバリエーションがみられた。

南長崎はらっぱ公園のビオトープは都市型公園に隣接し、ボランティアによって池を中心とした管理が為されている環境である。清和小学校のビオトープは畑地・田んぼ・池からなっている。池袋第三小学校は小規模な池を中心とした緑地環境であり、目白小学校は校庭の一部と、3 階の屋上を利用した高低差のある環境が特徴的である。

種数・種構成からみると、規模の大きさも相まって南長崎はらっぱ公園が抜きん出ているが、清和小学校や目白小学校もそれぞれの環境特性がみられた。

南長崎はらっぱ公園には池畔の植生のほか、隣接する公園にある「いのちの森」との連携もあり多様な種が訪れていた。池にはトンボ類が飛来し、いのちの森ではスカシバガ科やハムシ科など、樹木に依存する種がみられた。

今回調査で確認されたツルガハキリバチは中型のハナバチ類に入り、公園内もしくは比較的近距离の他の緑地で営巣しているものと思われる。

清和小学校のような畑地、田んぼ、池とその周辺の草地を組み合わせた環境では、野菜や周辺の草本類に集まる種のほか、水辺を好む種など様々な昆虫類がみられた。畑地でいえば主にカメムシ類の多様さに表れている。隣接した田んぼではコバネイナゴやヒメジャノメといったイネに依存する種がみられ、そのほかトンボ類もよく飛来していた。

水辺環境としては田んぼとは異なるビオトープ池がみられる。池において繁殖が確認

できたクロスジギンヤンマは、年一化性のため、今年羽化した個体は昨年夏以降に生育したものである。また、都心の水辺ではやや珍しいマルハナノミの幼虫もみられるなど、興味深い環境である。

ただし現状では抽水植物が密生しすぎており、このままではトンボにとって水面の確認が困難になる、朽ちた植物体の堆積によって陸地化してしまう、などの問題も危惧される。

目白小学校の校庭にあるビオトープ池は樹木に覆われているため、ギンヤンマよりも、日陰を好むクロスジギンヤンマに利用されている。秋季に確認したギンヤンマは年二化性であり、屋上緑地で発生する小型昆虫類を捕食対象としている可能性がある。目立たないがアジアイトトンボも校庭周辺、屋上緑地それぞれで確認しているので、やはり両環境を行き来しているものと思われる。

屋上緑地は明るい芝地と畑地の組み合わせであるので、野菜および周辺に生育する草本類にカメムシ類、各種ガ類やハムシ科といった様々な種がやってくる。軽い個体が風に乗って辿り着くことも多いであろう。

このように、昆虫類は翅をもっているので容易に飛来してくる。立体的な環境も昆虫類にとっては十分利用価値があることがわかる。



ニホンヤモリ
(令和3年5月28日 池袋第三小学校)



ニホンヤモリ 糞?
(令和3年7月20日 目白小学校)



アズマヒキガエル 幼体
(令和3年7月20日 清和小学校)



アズマヒキガエル 糞?
(令和3年7月20日 目白小学校)



アズマヒキガエル 卵塊
(令和4年3月9日 南長崎はらっぱ公園)

4. 水生生物調査

(1) 調査結果概要

水生生物は、5門7綱16目25科30種が確認された(表Ⅲ-4-1)。種の判明していないもので、重複しているおそれのあるものは、種数合計に含めていない。

調査地ごとに見ると、南長崎はらっぱ公園12種、清和小学校17種、池袋第三小学校3種、目白小学校15種であった。

(2) レッドリスト記載種

移入種を除く国RLと都RL(区部)記載種の確認はなかった。

移入種であるが、参考までにレッドリスト記載種を示す。

国RL記載種は以下の1種であった。

(絶滅危惧Ⅱ類) ミナミメダカ? (清和小学校、池袋第三小学校、目白小学校、南長崎はらっぱ公園)

都RL(区部)記載種は以下の2種であった。

(絶滅危惧ⅠA類) ミナミメダカ? (清和小学校、池袋第三小学校、目白小学校、南長崎はらっぱ公園)

(留意種) ヌカエビ (南長崎はらっぱ公園)

メダカ属の一種は、関東地方に分布するのはミナミメダカであるが、移入された個体で由来がはっきりせず、種までの同定には至らなかった。

表Ⅲ-4-1 水生生物確認種一覧

門名	綱名	目名	科名	No.	種名	南長崎 はらっぱ 公園		清和小学校		池袋 第三 小学校		目白小学校				国RL	都RL (区部)	外来種	備考	
						秋	冬	秋	冬	秋	冬	屋上		校庭						
												秋	冬	秋	冬					
扁形動物	有棒状体	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	1	ナミウズムシ															
軟体動物	腹足	汎有肺	モノアラガイ	2	モノアラガイ科の一種			●	●					●						
			サカマキガイ	3	サカマキガイ			●	●			●	●	●	●					
			ヒラマキガイモドキ	4	ヒラマキガイモドキ									●	●					
			-	5	微小シジミ類の一種									●	●					
			-	6	ミズミズ科の一種	●	●	●	●											イトミミズ科とする場合もある
環形動物	ミミズ	イトミミズ	ミズミズ	7	ヒル網の一種			●				●	●							
節足動物	軟甲	ヒル	ケンミジンコ	8	ケンミジンコ目の一種									●						
			ミジンコ	9	ミジンコ目の一種				●											
			ヨコエビ	10	ヨコエビ類の一種			●				●	●	●	●				フロリダマミズヨコエビの可能性あり	
			ワラジムシ	11	ミズムシ						●									
			エビ	12	ヌカエビ	●	●											留意種	来園者による放流？	
			13	カワリヌカエビ属の一種	●	●									●	●			造成当初の放流	
	14	アメリカザリガニ	●	●					●	●						総合-緊急	来園者による放流			
	昆虫	カゲロウ	トンボ	コカゲロウ	15	コカゲロウ科の一種				●										
				イトトンボ	16	イトトンボ科の一種				●										
				ヤンマ	17	ギンヤンマ										●	●			
				18	クロスジギンヤンマ				●											
				-	19	ギンヤンマ属の一種				●										
				トンボ	20	シオカラトンボ				●										
		21	オオシオカラトンボ				●													
		-	22	シオカラトンボ属の一種				●												
カメムシ		23	ヒメアメンボ属の一種	●																
24		ケンカタビロアメンボ				●								●						
ハエ		25	ヌカカ科の一種	●																
26		ユスリカ科の一種	●	●		●							●	●				モンユスリカ亜科、ユスリカ亜科などを含む		
27	ヤチバエ科の一種			●						●										
脊椎動物	硬骨魚	マルハナノミ	28	トビイロマルハナノミ属の一種			●													
コイ	メダカ	29	タイリクバラタナゴ	●	●												総合-重点	来園者による放流		
		30	モツゴ	●	●													造成当初の放流		
		31	メダカ属の一種	●	●		●	●						●	(VU)	(CR)		造成当初の放流。ミナミメダカ？		
5	7	16	25		30	10	10	10	10	2	3	4	3	9	12	0(1)	1(2)	2		
						12	17		3	5 14				15						

国RL:環境省レッドリスト 都RL:東京都レッドリスト CR:絶滅危惧ⅠA類 VU:絶滅危惧Ⅱ類

「外来種」は生態系被害防止外来種リスト記載種を示す。

綱名、目名については、河川水辺の国勢調査 令和3年度生物リストを参照した。

(3) 外来種

生態系被害防止外来種リスト記載種が2種、確認された(図Ⅲ-4-1)。

(総合対策外来種 重点対策外来種)

タイリクバラタナゴ (南長崎はらっぱ公園)

(総合対策外来種 緊急対策外来種)

アメリカザリガニ (池袋第三小学校、南長崎はらっぱ公園)

その他、清和小学校と目白小学校でサカマキガイが確認され、外来種は合計3種であった。

南長崎はらっぱ公園と目白小学校で確認されたヨコエビ類の一種には、総合対策外来種でその他の総合対策外来種であるフロリダマミズヨコエビが含まれている可能性が高い。



タイリクバラタナゴ
(令和3年9月22日 南長崎はらっぱ公園)



アメリカザリガニ
(令和3年9月22日 池袋第三小学校)

図Ⅲ-4-1 確認された外来種(水生生物類)

タイリクバラタナゴはドブガイなどの淡水性の二枚貝に産卵するため、ドブガイのいない南長崎はらっぱ公園の池で繁殖することはない。そのため、特に駆除は必要ないと考えられるが、来園者により放流されたものであるため、ポスター等で抑止を呼び掛けるなどの対策が必要である。

アメリカザリガニは雑食性で落葉、水草、水生生物、生物の死骸などを摂食する。繁殖力が強く、個体数が急激に増加することで他の動植物の減少や消失を招く。生物保全を目的としたビオトープを管理する上では、駆除する必要があるといえる。

サカマキガイは具体的に在来種の存続を脅かした事例は無いようであるが、多産性で水槽内では水草を食害することがある。

フロリダマミズヨコエビは在来のヨコエビと競合するといわれているが、人工池で在来のヨコエビは確認されていないため、駆除等は必要ないと考えられる。

(4) 各調査地の確認状況

1) 南長崎はらっぱ公園

3門4綱8目10科12種が確認された。

魚類は、モツゴ、メダカ属の一種、来園者に放流されたと思われるタイリクバラタナゴが記録された。ビオトープ池造成時に放流されたドジョウは、今年度は確認されなかった。メダカ属の一種は、関東に分布するミナミメダカの可能性がある。今年度は個体数が多く、稚魚も確認された。

水生昆虫は、冬期調査でシオカラトンボの幼虫（ヤゴ）を1個体確認した。「2. 昆虫類調査」で前述の通り、オオシオカラトンボの成虫やクロスジギンヤンマの羽化殻も確認されている。ミズミズ科の一種やアカムシと呼ばれるユスリカ科の一種の幼虫などが確認されており、これらが魚類やトンボ類の幼虫などの食物になっていると考えられる。

甲殻類では、造成時に放流されたと思われるカワリヌマエビ属の一種が確認された。西日本産のミナミノマエビと輸入された近縁のシナヌマエビ類のいずれかと推察される。また昨年度に引き続き、ヌカエビが確認された。ヌカエビは近畿以北～東北地方まで分布する日本固有種だが、平成30年度までの調査では確認されていないことから、飼育個体が来園者により放流されたものと思われる。アメリカザリガニは、抱卵個体は確認されていないが、冬期調査での記録はすべて体長2.5cm未満の今年度生まれの個体であった。



メダカ属の一種
(令和3年9月22日)



モツゴ
(令和3年9月22日)



タイリクバラタナゴ
(令和4年3月9日)



ヌカエビ
(令和3年9月22日)



シオカラトンボ(幼虫)
(令和4年3月9日)



ミズミズ科の一種
(令和4年3月9日)

図Ⅲ-4-2 確認された主な水生生物(南長崎はらっぱ公園)

2) 清和小学校

4門5綱9目12科17種が確認された。このビオトープ池は、全調査地の中で最も水生生物の種数が多かった。アメリカザリガニが生息していないこと、水生植物や藻類が豊富であることなどから、多くの水生生物の隠れ場や産卵場所が整った環境であると考えられる。

魚類やトンボ類の幼虫などの食物となる、ミズミズ科の一種やミジンコ目の一種が豊富であった。肉食性水生昆虫は、イトトンボ科の一種の幼虫、クロスジギンヤンマの幼虫、トビイロマルハナノミ属の一種など6種が確認されている。

貝類(複足綱)は、モノアラガイ科の一種とサカマキガイが多数確認された。

魚類は、メダカ属の一種が確認された。稚魚も確認されたため、繁殖しているようである。



ミジンコ目の一種
(令和4年3月9日)



ショウジョウトンボ(幼虫)
(令和3年9月10日)



クロスジギンヤンマ
(令和4年3月9日)



トビイロマルハナノミ属の一種
(令和3年9月10日)



サカマキガイ
(令和3年9月10日)



メダカ属の一種
(令和4年3月9日)

図Ⅲ-4-3 確認された水生生物(清和小学校)

3) 池袋第三小学校

2門2綱3目3科3種が確認された。メダカ属の一種とアメリカザリガニの個体数が多かった。

魚類は、メダカ属の一種が確認された。稚魚も確認されたため、繁殖しているようである。

アメリカザリガニは、冬期調査では体長 4.5 cm以下の小さな個体ばかりであった。今年度生まれのものと考えられる。

ワラジムシ目のミズムシが 1 個体確認された。生物学的水質判定法*においては、汚い水の指標になる種である。

*生物学的水質判定法：生息する生きものから水質を判定する方法。



メダカ属の一種
(令和3年9月22日)



アメリカザリガニ
(令和4年3月9日)



ミズムシ
(令和4年3月9日)

図Ⅲ-4-4 確認された主な水生生物(池袋第三小学校)

4) 目白小学校

①屋上ビオトープ

3門4綱4目5科5種が確認された。サカマキガイ、微小シジミ類の一種、ヨコエビ類の一種の個体数が多かった。

貝類(腹足綱)は、外来種であるサカマキガイと微小シジミ類の一種が確認された。微小シジミ類の一種は今年度の調査で初めて確認された。

ヨコエビ類の一種は、外来種のフロリダマミズヨコエビの可能性が高い。

②校庭ビオトープ

5門6綱10目14科14種が確認された。モノアラガイ科の一種、サカマキガイ、ヒラマキガイモドキ、カワリヌマエビ属の一種の個体数が多かった。

イトトンボ科の一種の幼虫(ヤゴ)やギンヤンマの幼虫、ケシカタビロアメンボといった肉食性水生昆虫も確認された。これらの食べ物となる、ケンミジンコ目の一種なども確認されている。

今年度の調査で初めてナミウズムシを確認した。本種は比較的きれいな水に生息する種である。



サカマキガイ
(令和4年3月8日(屋上))



微小シジミ類の一種
(令和4年3月8日(屋上))



カワリヌマエビ属の一種
(令和3年9月10日(校庭))



イトトンボ科の一種(幼虫)
(令和4年3月8日(校庭))



ギンヤンマ(幼虫)
(令和4年3月8日(校庭))



ナミウズムシ
(令和3年9月10日(校庭))

図Ⅲ-4-5 確認された主な水生生物(目白小学校)

(5) 考察

1) 南長崎はらっぱ公園

個体数の多かったメダカ属の一種は、昨年度までの調査では人工藻でも捕獲されている。人工藻は、潜り込んだ小さなザリガニを駆除する目的とアメリカザリガニの食害により水草が減少した状況下で水草の代わりにヤゴ等の隠れ場となるように水中に吊るしているものである。これが小魚類にも隠れ場などとして利用されている可能性がある。将来的には、新たに植栽した水生植物にこれらの機能を持たせることが望ましい。

トンボ類の幼虫（ヤゴ）は、シオカラトンボが確認された。昆虫類調査ではクロスジギンヤンマの羽化殻が確認されている。アメリカザリガニによる捕食はありつつも、駆除効果が徐々に出てきたものと思われる。しかし、まだトンボ類の幼虫の個体数は少ないため、引き続きアメリカザリガニの駆除を続ける必要がある。

外来種や放流された種については、淡水産ヌカエビ類のカワリヌカエビ属の一種はすでに定着している。今年度の調査ではヌカエビも数が多く、増加していることが判明した。自然水域の下流域では、在来種であるヌカエビのいる環境にカワリヌカエビ属が入り込むと、数年で種が入れ替わってしまう例があるが、このビオトープ池ではヌカエビも定着しつつあることが示唆された。タイリクバラタナゴやフロリダマミズヨコエビは、外来種ではあるがほかの在来種への影響は懸念されないので駆除等の必要はないと考えられる。タイリクバラタナゴはドブガイなどの淡水性の二枚貝に産卵するため、これらがいなければ繁殖することはないが、来園者により放流されたものであるためポスターで抑止を呼び掛けるなどの対策が必要である。

2) 清和小学校

全調査地の中で最も水生生物の種数が多かった。その一因として、アメリカザリガニが生息していないことが挙げられる。水生植物や藻類も豊富で、多くの水生生物の隠れ場所や産卵場所が整った環境といえる。

トンボ類の幼虫やトビイロマルハナノミ属の一種などの肉食性水生昆虫が豊富なことも、このビオトープ池の特徴といえる。ミズミズ科の一種やミジンコ目の一種などが生息しており、肉食性水生昆虫はこれらを摂食していると考えられる。

外来種としては、サカマキガイが多数確認されたが、具体的に在来種の存続を脅かした事例は無いようなので、駆除の必要はないと考えられる。

3) 池袋第三小学校

ビオトープ池は、底質が金網になっており自動で水位調整や水の入れ替えがされるシステムが導入されていた。そのため底生生物の確認が困難であった。そのような中、ワラジムシ目のミズムシが確認された。主に河川で行われる生物学的な水質判定法においては、汚い水の指標になる種である。止水域においては、富栄養状態になりやすいためミズムシが生息していても特に問題はない。

個体数が多かったアメリカザリガニについては、繁殖も確認されており駆除が必要である。メダカ属の一種も繁殖しているため、メダカ属の一種の産卵床となる植物をアメリカザリガニから守る必要があると考えられる。

4) 目白小学校

①屋上ビオトープ

ビオトープ池はごく浅い環境で、解放水面が小さかった。サカマキガイ、微小シジミ類の一種、ヨコエビ類の一種は校庭のビオトープ池にも生息しており、おそらくここから持ち込まれ、狭い環境で増えているものと思われる。

②校庭ビオトープ

ナミウズムシを確認したことから、食べ物となるリターなどが豊富で水質も良好であることが示唆された。また、アメリカザリガニが確認されなかったことから、ほかの水生物への食害がない環境であるといえる。ケンミジンコ目の一種などの微生物が生息していることが、イトトンボ科の一種の幼虫（ヤゴ）やギンヤンマの幼虫、ケシカタビロアメンボといった肉食性水生昆虫が豊かである一因と考えられる。

5. 調査結果に基づく今後の維持管理の提案

(1) 南長崎はらっぱ公園

1) ビオトープ

アメリカザリガニの駆除作業を継続しつつ、池畔の植物が繁茂する時期に適度な除草を行って開放水面を確保することによって、トンボ類の飛来しやすい水辺ビオトープが維持できると考えられる。人工藻の設置も、アメリカザリガニの捕食圧が低下して水草が植えられるようになるまでの水草の代替としてトンボ類幼虫の生息場所として有効である。将来的には、浮葉植物や沈水植物の繁茂する池でトンボの継続的発生がみられることを目標にしたい。

また、都市公園内にあるビオトープで周辺住民にとって身近な緑地であり、さまざまな人が訪れる。その際、タイリクバラタナゴのように、外来種などの生物が持ち込まれることがこれからも起こり得る。アメリカザリガニ駆除と並行して、これらについても定期的に点検し、必要に応じて駆除作業を実施することが適切である。

池の底質は粘土質であるが、ミズミズ科の一種やユスリカ科の幼虫の食物となる落ち葉などの有機質が増えてきた。ミズミズ科の一種やユスリカ科の幼虫などの底生生物はヤゴの食物となるので、この環境は維持すべきである。

アズマヒキガエルの産卵環境として、適度に日の当たる浅い水域があり、卵塊を絡めて流れにくくするためのヨシやヒメガマ類等の枯れ葉があることが好条件である。深い水域と浅い水域の両方を維持することで、本公園のビオトープ池における生物多様性の維持につながると考えられる。

2) 園内全域

いのちの森では、林床にマルバフジバカマやシマトネリコなどの外来種が侵入しているため除去することが望ましい。また、園内に点在するニワウルシ、トウネズミモチ、ニセアカシアも、引き続き定期的な伐採により開花結実を防ぐことが重要である。

草地では、一律に草を短く刈ってしまうより、一部を刈り残して草丈の高い場所を造り立体的な草地環境を創出することで、クビキリギスやイナゴ類などの多様な昆虫を呼び込むことができると考えられる。

(2) 清和小学校

植物、動物類ともに種数が多く、比較的生物多様性が高いビオトープであるといえる。生物相からも、都市では減少しつつある湿気を保った環境であることが読み取れる。

池には抽水植物が多く、多様な水生生物の生息場所として機能している。一方で、植物が水面を覆うことで、トンボにとって水面の確認が困難になる、朽ちた植物体の堆積によって陸地化してしまう、といった問題も懸念される。目下の課題は特定外来生物のオオフサモの除去である。すでに池の全体と、その周囲に蔓延っている。抽水植物のキショウブも増えやすいため、刈り取っても問題ないと思われる。その際、レッドリスト記載種のイヌタヌキモは一時的に避難させるなどしてなるべく残すことが望ましい。

また、同校で保全しているアザミも、外来種のアメリオニアザミから在来種のアザミなどへ転換できると良い。

生物相が豊かである理由の一つとして、アメリカザリガニが生息していないことも重要である。ビオトープの前には掲示板があり、校内の生物多様性に関する情報提供がされている。引き続き、生物多様性の維持に関する正しい情報の周知を図ることが

望ましい。

(3) 池袋第三小学校

ビオトープ池において、アメリカザリガニの生息が確認された。何者かに放されたもので、過去には移入種のマリアオガエルや外来種のブルーギルなども放され、都度捕獲をしているということである。

メダカ属の一種が繁殖しており、アメリカザリガニの被害を防ぐためには産卵床の保護が有効であると考えられる。具体的には、現在生育している抽水植物を金網で覆い、アメリカザリガニの侵入を防ぎ、メダカのみ行き来できるようにする方法が挙げられる。

陸域では、周辺に土の露出した箇所が少ないため、剪定した枝を積み置く、除草も適度に刈り残し、落ち葉を残すなどの工夫をすることで動物類の来訪を期待することができると思われる。

(4) 目白小学校

1) 屋上ビオトープ

屋上環境で乾燥しやすいため、畑地ともども適切な灌水が継続されるとよい。

ビオトープ池は水深がごく浅く、フトイとイネ科の一種が池の全面を覆っているため解放水面が小さい。水生植物を間引き、解放水面を広げることで、トンボ類など水生昆虫の産卵場所となる可能性がある。とくに止水性イトトンボ類の幼虫は浅い水辺を好むため、環境を整えれば定着する可能性がある。

2) 校庭ビオトープ

ビオトープ池は日陰にあるため、水生植物は日照を求めて校庭側に偏って生育している。必要に応じて周辺樹木を剪定し、日照を確保することが求められる。

動物相は豊かで、水質も良好であると考えられる。アメリカザリガニが生息していないことも重要な点である。注意喚起と定期的な見回りにより、外来種の放流を防ぎ環境を維持できると良い。

(5) ビオトープ全般に対する提案

調査を通し、ビオトープの管理方法が分からない、管理に時間が割けない、授業での活用ができていない、などの声が各校の先生から聞かれた。これらの課題の解決に向けた一つの方法として、ビオトープの維持管理マニュアルの作成を提案したい。

ビオトープの管理には、ある程度共通した方法がある。例えば、アズマヒキガエルを誘致するためには産卵場所となる浅い止水域と、周辺に身を隠せる落ち葉溜まりや草むらを作ることが必要である。トンボ類を呼び込む場合は、上空から水辺を認識できるように水草を間引いて開放水面を確保する必要がある。これらの「ポイント」を、生きものの知識がない方にも分かりやすくまとめることで、管理の手助けとなることが期待される。

アメリカザリガニをはじめとする外来種や移入種の放流防止の呼びかけも、引き続き実施することが望ましい。南長崎はらっぱ公園や池袋第三小学校のように、繰り返し放流されてしまう場所では、ポスターの掲示等で特に周知を図ってほしい。

令和 3 年度 豊島区動植物生態調査報告書

令和 4 年（2022 年）3 月発行

豊島区 環境清掃部 環境政策課
